

会 議 報 告

区 分	内 容
会 議 名	令和８年度第１回前橋市社会福祉審議会児童福祉専門分科会（こどものまち前橋有識者会議）
日 時	令和８年７月１６日（木）１０：００～１１：３５
場 所	前橋市第二コミュニティセンター３階 視聴覚室
出 席 者	【委員】１３名 森分科会長、田中職務代理者、田村委員、守山委員、千原委員、町田委員、天田委員、杉本委員、横澤委員、石川委員、高橋委員、大塚委員、佐藤委員 【事務局】 望月こども未来部長 こども政策課：佐藤課長、平形課長補佐、篠原副主幹、奈良主任、野村主任 こども支援課：阿久沢課長 こども施設課：山口課長、一木副参事 教育委員会事務局総務課：竹内副参事 教育委員会事務局教育支援課幼児教育センター：長屋所長
欠 席 者	５名 清野委員、戸所委員、中村委員、栗田委員、大本委員
傍 聴 者	なし
議 題 等	○議題 報告事項 （１）前橋市こども基本条例の普及促進について （２）こどものまち前橋こども・若者会議の設置について （３）こどもの参加 MOTTO メールについて （４）こども施策連携チームズの活動状況について
結 果	各報告事項について事務局から説明を行い、今後の取組に関する意見交換及び情報共有を図った。
内 容	１ 開会（こども政策課） ２ 議題（進行：森分科会長） 議題（１）～（４）についてこども政策課より説明を行った後、質疑応答及び意見交換を行った。 （１）前橋市こども基本条例の普及促進について ・こども基本条例について、令和８年度の普及活動の実施状況や、こどもの権利の日に向けた関連事業の実施予定などを説明した。 （２）こどものまち前橋こども・若者会議の設置について

	・今年度から新たに高校生世代の委員を加え「こども・若者会議」として活動を開始したこと、現在の委員の構成、今年度の活動予定等について説明した。 (3) こどもの参加 MOTTO メールについて ・こどもの参加 MOTTO メールを運用開始したこと、概要、対象者等について説明を行い、現在の登録状況についても共有した。 (4) こども施策連携チームズの活動状況について ・庁内に設置しているこども施策連携チームズの令和7年度の各チームの活動成果や連携状況、令和8年度からの見直し点、リーダー会議の設置等について説明を行った。 3 閉会（こども政策課）
主な意見、感想など	(森分科会長) ・条例に関する記事が広報まえばし4月号に掲載されているのを目にし、施行されたことを改めて実感し嬉しく思った。 ・こども・若者会議について、こども委員は学校のバランスが取れており、若者委員についても継続委員がいることで経験や知識の継承につながると感じた。 ・こどもにとって、市役所の取組や自分との関わりは分かりにくいことが多い。大人が真摯に意見を聴き、その意見が市の施策に反映され、結果がフィードバックされる経験を積むことで、市役所をより身近に感じられるようになるのではないかな。 (田村委員) ・遊び場指導員や地区の育成会役員をしており、こどもと関わる場面が多いが、条例を浸透させていくためには、こどもに関わる大人が日常的に条例を意識しながら行動することが重要であり、その中で課題や意見も見えてくるのではないかなと思った。 ・こどもの参加 MOTTO メールは有効な取組だと感じるが、その周知の方法として「すぐーる」は配信情報が多く埋もれやすいため、定期的に情報発信してほしい。 (守山委員) ・植樹などの環境に関する取組は重要であり、予算等の問題もあり大変なこととは思いますが、自然環境を守りながら温暖化対策を進め、未来のこどもたちにより良い環境を残していくことが必要である。 (千原委員) ・昨年度からの取組の積み重ねにより、こども施策が着実に進展していることを実感した。民生委員として、こどもや子育て家庭、地域住民との関わりの中で、こどもの権利の視点を意識しながら見守りや支援につなげていきたい

い。それぞれの立場で条例やこどもの権利について理解を深め、実践につなげていくことが重要である。

(町田委員)

- ・地域行事であるのびゆくこどものつどいにおける中学生ボランティアの参加は、主催者側の立場として携わってもらいたい良い機会となっている。
- ・こどもの参加 MOTTO メールで集約した情報について、自治会へは共有してもらえるのか。自治会とも共有できる仕組みがあると、地域とこどものつながりづくりに役立つのではないか。
- ・地域文化や伝統の継承に当たっては、その背景や意義をこどもたちに伝えることで地域への愛着につながると思う。

(こども政策課)

⇒ ・自治会への情報共有については検討したい。

(天田委員)

- ・日頃こども施策に関する議論に関わる機会が少ないため、今後は皆様の意見を聴きながら理解を深め、自身も発言していきたい。

(杉本委員)

- ・5月に敷島公園で市内の小学生を対象とした「わんぱく相撲大会」を実施し、花火大会の日には「子どものやってみよう！を応援する日」として「花火の前につながる夏祭り」の実施を予定しているが、こういったイベントでは毎回周知に苦戦しているため、こどもの参加 MOTTO メールは若年層への情報発信手段として有効な取組であると感じた。一方で、このツール自体の周知が重要であり、対象年齢が広いと、ターゲットを明確にした発信も必要ではないか。
- ・登録者数の目標はどれくらいか。

(こども政策課)

⇒ ・本ツールに加え、広報紙、LINE、メール、Instagram など既存の媒体も活用しながら周知を進めていきたい。成長段階に応じて必要な情報は異なるため、対象年齢を意識した情報発信を行っていく。

・当面は100人の登録を目標としている。

(横澤委員)

- ・障害のあるこどもや発達に不安のあるこどもなど、声を聴かれにくいこどもについては、保護者から意見を聴くことも重要である。たんぽぽ学園では2歳から18歳までのこどもが利用しているため、アンケートや保護者会などを通じて協力できることがあれば協力したい。

(石川委員)

- ・こどもが行政に関わる機会を持つことは、将来的な前橋市への愛着や定着にもつながるため、行政との接点を増やしていくことが重要である。

(高橋委員)

- ・こどもの意見を聴き、施策に反映していく取組が着実に進められていることを実感した。
- ・保育現場では、こどもの意見を尊重しながらも、こども任せになったりこどもに責任を押し付けるようなことにならないよう、同じ目線で丁寧な対話を重ねることが重要だと考えている。
- ・情報発信については、定期的な発信に加え、こどもや若者の関心や流行を踏まえた工夫も必要であると思う。

(こども政策課)

⇒ ・ 4 月に Instagram を開設したため、ぜひご覧いただきたい。

(大塚委員)

- ・大人が想定しているこどもの考えと実際のこどもの意見が異なることは多い。実際に小学校の生徒との会話の中で、自身が思っていたこどもの姿とは違う意見を聴くことも多々あり、こうした意見を吸い上げ、その結果をフィードバックすることは非常に重要である。自分の意見が反映されたという実感は、こどもの主体的な行動につながると思う。
- ・学校は常にこどもと接する場であるため、教員が継続して話題にし、対話を重ねることで、条例やこどもの権利の理解が深まるのではないかな。
- ・組織の連携状況を可視化することは、市の取組を理解してもらう上で有効であると感じた。
- ・こどもたちが前橋市とつながっていると実感できる取組をしてほしい。

(佐藤委員)

- ・こども・若者の社会参画や意見表明は社会教育の観点からも重要なテーマであり、本日の報告はその意義や方向性が具体的に示されていて大変参考になった。
- ・こども施策連携チームズについては、市の全ての部署が連携しながらこどもを取り巻く環境づくりを進めており、重要な取組であると感じた。
- ・こどもの意見聴取については参加者の確保などの課題もあると思うが、本日の意見も参考にしながら進めてほしい。

(田中委員)

- ・こどもの参加 MOTTO メールの対象は 9 歳から 18 歳となっているが、条例では「こども」を 0 歳から 18 歳としていることから、8 歳以下に対する意見聴取についても検討してほしい。
- ・情報発信については、SNS 等で情報があふれ埋もれやすい現状があるため、

	継続的かつインパクトのある発信が重要である。
--	-------------------------------

- ・こどもに関する様々な取組が進められていることを心強く感じており、今後も市全体で継続的に取り組んでほしい。

以上